

近畿大学 授業・学修における生成 AI 活用ガイドライン

「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人」になるために

2026 年 10 月 1 日

IR・教育支援センター

ニュース等でも連日話題となっているように、文章や画像を自動で作成する生成 AI は、急速に私たちの身近な存在となり、これからの社会において必要不可欠な技術になろうとしています。生成 AI の利便性の高さや革新性の高さは、大学での学びのあり方にも大きな影響を与えつつあります。

しかし、このような時代の変化の中にあっても、本学が教育の目的として掲げる「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」の重要性は変わりません。生成 AI は非常に便利な技術ですが、安易に思考や判断を委ねて不適切な使い方をしてしまえば、自らの成長の機会を逃すばかりか、自身に対する信頼や尊敬を失うことにもつながりかねません。

学びの主役は生成 AI ではなく、皆さん自身です。批判的思考をはぐくむための「成長のパートナー」として主体的に使いこなす姿勢が求められます。

これからの社会で生成 AI という新しい技術を使いこなすためには各自の倫理観が重要になります。周囲から真に信頼され、尊敬される人材へと成長していくために、以下の「1. 生成 AI と向き合う基本姿勢」「2. 授業や課題における生成 AI 利用のルール」「3. 生成 AI 利用時に警戒すべき重大なリスク」の 3 点をしっかりと確認しておいてください。

1. 生成 AI と向き合う基本姿勢

生成 AI の特性を理解し、自身の責任で判断を下す

- 生成 AI は流暢な応答により、まるで人間と対話しているかのような自然な文章を作成します。しかし、実は膨大なデータから統計的にもっともらしい表現を予測して文章を生成しているだけであり、意味内容や背景にある文脈を理解しているわけではありません。
- 価値判断を下したり、責任を持って決定したりすることもできません。最終的に何を目的とし、得られた情報をどう評価して行動に移すかを決めるのは、学びの主体である皆さん自身です。

自身の思考を深める補助ツールとして、生成 AI を使う

- 生成 AI は絶対的な正解を出してくれる便利な存在ではありません。あくまで検討の糸口や、ア

アイデアを広げるための補助的なツールとして捉えてください。

- 生成 AI から得た情報を鵜呑みにしてそのまま受け入れるのではなく、そこからさらに自分自身の頭で考え、深く考察を進めていくプロセスこそが、大学での学びにおいて非常に重要です。

生成 AI を自身の成長のパートナーに位置付ける

- 生成 AI は主体的に使いこなすことで、自らをさらに成長させてくれるパートナーになり得ます。自身の考えやアイデアを生成 AI にぶつけて、回答に対して追加の問いかけを行う「壁打ち」を繰り返すことで、より深く豊かな学びを実現することができます。
- 多様な視点を得るためのアイデア出し、理解度チェックのための選択問題作成、そして自分の意見に対する論理的な矛盾の指摘など、思考を発展させるためのツールとして積極的に活用しましょう。

2. 授業や課題における生成 AI 利用のルール

担当教員の指示を守る

- 授業や課題によって、生成 AI の利用が推奨される場合もあれば、制限される場合もあります。まずはシラバスや授業内での指示をよく確認し、そのルールに従ってください。
- もし、「この使い方をしてよいか」「出典はどのように書くべきか」など、少しでも不安や疑問を感じた場合は、必ず担当教員に質問してクリアにしておきましょう。

生成 AI に丸投げせず、自分で考え、自分の言葉で成果物を作る

- 生成 AI が作成したものを、自らの考察を加えることなく成果物として提出することは、自身の学びの成果を偽るだけでなく、他者のレポート等を丸写しする「盗用」と同じ不正行為とみなされます。
- 生成 AI に丸投げすることは、成長の貴重な機会を自ら手放すことにほかなりません。目先の便利さに頼って思考力や表現力を鍛えるチャンスを失わないよう注意してください。

生成 AI の使用を明記し、使用の過程を記録する

- レポート等の課題で、生成 AI の出力を参考に利用した際は、利用したツールの名称や利用日、該当箇所を脚注や末尾に明記してください。完成した成果物だけでなく、皆さんが「生成 AI とどのように対話し、思考をどう深めていったか」といったプロセスが重視されることがあります。
- 提出後に教員から生成 AI の利用状況について確認を求められることもあります。自分がルー

ルに従って適切に生成 AI を利用したことをいつでも証明できるよう、入力したプロンプトと出力結果の履歴は、保存しておく習慣をつけましょう。

3. 生成 AI 利用時に警戒すべき重大なリスク

もっともらしい嘘である「ハルシネーション」を疑う

- 生成 AI は事実とは異なる情報を、あたかも正しいかのように提示することがあります。特に、文献やデータについては実在しないものを本物のようにでっちあげることがあります。また、人種や民族、性差、宗教等についての偏見を示し、人権侵害行為に加担する危険性もあります。
- 出力された内容を受入れず、必ず一次資料や信頼できる情報源にあたって事実かどうか確認する「ファクトチェック」を行うようにしてください。

機密情報や個人情報を入力しないようにする

- 生成 AI に入力した情報は、さらなる学習に利用され、意図せず流出してしまうリスクがあります。そのため、自分や他者の氏名・連絡先といった個人情報や、未発表の論文・研究データといった機密性の高い情報は、絶対に入力しないでください。
- 個人のデータを扱う必要がある場合は、必ず事前に匿名化処理を行い、個人が特定できない状態にするなど細心の注意を払いましょう。入力データが学習に使われない「オプトアウト」の機能を活用するなど、情報漏洩の防止に努めてください。

意図せぬ著作権侵害や剽窃に注意する

- 生成 AI の出力には他者の著作物が含まれる可能性があり、そのまま発表すると著作権侵害となるおそれがあります。また、文章や図表、画像や音楽など、既存の著作物に類似したものを意図的に生成することも著作権の侵害となります。
- 他者の著作物や作品を無断で、あるいは知らず知らずのうちに使用し、自分のものとして発表する行為は剽窃にあたります。生成 AI の利用によって生じた権利侵害や剽窃等の責任は、すべてあなた自身が負うことを自覚してください。

このガイドラインを活用し、生成 AI を自らの「成長のパートナー」として責任を持って適切に利用してください。その主体的で誠実な学びの姿勢こそが、将来「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人」として社会で活躍するために必要な資質・能力の修得につながっていきます。